

令和6年4月29日

令和6年春の叙勲受章者について

在ブラジル日本国大使館
在サンパウロ日本国総領事館
在リオデジャネイロ日本国総領事館
在クリチバ日本国総領事館
在ポルトアレグレ領事事務所

1. 令和6年春の叙勲者（ブラジル在住の方）は別紙のとおり決定しました。

在ブラジル日本国大使館 名)	(外国人1名)
在サンパウロ日本国総領事館	(外国人1名)
在リオデジャネイロ日本国総領事館	(外国人1名)
在クリチバ日本国総領事館	(邦人2名、外国人1名)
在ポルトアレグレ領事事務所	(邦人2名)
合計（邦人：4名、外国人：4名）	

2. 上記に関するお問い合わせは、次の電話番号にお願いいたします。

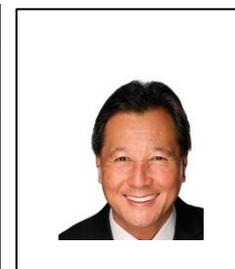
在ブラジル日本国大使館	(61) 3442-4200
在サンパウロ日本国総領事館	(11) 3254-0100
在リオデジャネイロ日本国総領事館	(21) 2240-2383
在クリチバ日本国総領事館	(41) 3322-4919
在ポルトアレグレ領事事務所	(51) 3334-1299

以上

在ブラジル日本国大使館 推薦叙勲受章者

〈外国人叙勲〉

氏名	年齢	住所	勲等	国籍
西森弘志 ルイス	76歳	パラナ州 マリンガ市	旭日中綬章	ブラジル



(主要経歴)

現 連邦下院議員

現 伯日友好議連会長

元 パラナ州議会議員

(主な功績)

西森氏は平成23年から12年(3期)にわたり連邦下院議員を務め、また、それ以前の平成15年から8年間(2期)においてパラナ州議会議員として、ブラジルを代表する数少ない日系人政治家として、日伯間の議会及び政府の間に立ち、両国間の関係強化に尽力した。

伯日友好議連会長として、約90人の議連メンバーやブラジル全土における日系社会との調整を積極的に行い、毎年6月、ブラジル日本人移民の日の下院本会議で記念式典を開催。これは議会においてブラジル日本人移民の重要性を広報する貴重な機会となっている。また、平成10年に小渕外相及びカルドゾ大統領が出席した日本人ブラジル移住90周年、平成20年に皇太子殿下及びアレンカール副大統領が出席された100周年、及び平成30年に眞子内親王殿下が出席された110周年の記念行事の際、祝賀委員会の委員等を務め、皇族及び総理をお迎えすると共に、祝賀行事を成功に導いた。

ブラジル第2の日系社会を有するパラナ州において、同州の姉妹県である兵庫県との交流活性化に尽力。令和5年、マリンガ市・加古川市は姉妹都市提携50周年を迎えたが、この50年に亘り、西森氏は頻繁に加古川市を訪問し、交流を活性化してきた。また、西森氏が4歳から高校時代まで過ごした高知県に関しても、歴代県知事との積極的な交流を行っている。

また、経済分野において西森氏は伯日経済ミッションの団長として25回訪日しており、うち、連邦議員としては農業分野での日伯協力促進のため日伯双方の関係各方面と連携を図ってきた。パラナ州議会議員時代にも、パラナ州内企業と主に農業分野における日伯貿易促進に貢献した他、パラナ州進出日本企業から、州税にかかる相談を受ける等、日・パラナ州連携強化に多大な貢献を行った。

在サンパウロ日本国総領事館 推薦叙勲受章者

〈外国人叙勲〉

氏名	年齢	住所	勲等	国籍
名・姓 ソニア・マリア・ビビ ・ルイテン	75歳	サンパウロ州 サンビセンテ市	旭日双光章	ブラジル



(主要経歴)

現 日本漫画評論家・研究家

(主な功績)

ブラジルにおいてポップカルチャーを学術的題材として扱うことは極めて稀であった昭和60年代に、初めてブラジルの学術界において日本の漫画に関する論文を発表し、日本の大衆文化を分析する先駆者的存在として活躍した。日本文化の基盤、比較文化理論の研究発表においても業績を残し、同氏が執筆した本や専門記事は学術界のみならず、現在も一般ジャーナリズムにおいても貴重なリファレンスとして扱われている。また、南米諸国、ブラジル国内の主要都市で日本文化、日本ポップカルチャーに関する文化講演会を実施、高度な視点で現代日本を紹介する有識者であり、日本との関係構築、交流に大きな業績を築いている。

同人は、サンパウロ大学、サントス・カトリカ大学、プレジデンテ・アントニオ・カルロス大学等で漫画を軸に教鞭をとった他、大阪外国語大学、東京外国語大学及び筑波大学等においても、日本及びブラジルの大学における漫画及び語学や文学の講義を通じて両国間の文化理解促進及び学術交流に貢献した。

漫画研究の認知を高めるためブラジル漫画家協会 (ABRADEMI) の創設者の一人として尽力した。ブラジルにおける漫画家を選考、表彰、紹介するブラジルの漫画版オスカー「Troféu HQ Mix」において2度受賞した他、同協会会長を務めた経験も有する。現在も同賞選考委員会のメンバーとして活動し、精力的な漫画研究を行っている。

本年3月24日にもブラジル漫画家協会 (ABRADEMI) 創立及び手塚治虫氏来伯の両40周年を記念した特別展示最終日において手塚治虫氏の講演を実施した。

在リオデジャネイロ日本国総領事館 推薦叙勲受章者

〈外国人叙勲〉

氏名	年齢	住所	勲等	国籍
ソウハク・ライムンド・セー ザル・バストス	75歳	リオデジャネイロ州 リオデジャネイロ市	旭日双光章	ブラジル



(主要経歴)

現 日伯文化協会会長

(主な功績)

ソウハク氏は、日本文化に精通しており、14年間日伯文化協会審議会員を務めた後、2015年以降現在まで日伯文化協会会長を務め、協会運営や各種日本関連イベント及び教室の運営において、主導的な役割を担ってきた。また、同氏は様々な広報文化イベント等への積極的な協力を通じて、日系社会のみならず、リオデジャネイロにおける日本のプレゼンスの更なる向上とともに、日本の多様な文化の普及及び二国間関係の深化に貢献してきた。

同協会会長に就任後、活動拠点の増設を目標に掲げ、ラランジェiras支部の立上げを主導した。同支部に新しく設置された武道場では、空手、柔道、合気道などの教室、茶室では茶道教室が開かれ、より多層的な日本文化の普及活動が可能となった。

2018年の日本人ブラジル移住110周年においては、周年事業の実行委員会副委員長を務め、マツウラ同委員長(令和4年秋外国人叙勲受章。故人)を支え、各種周年事業の実現に努めた。また、同年7月の眞子内親王殿下のリオデジャネイロ訪問準備に尽力し、同訪問の成功に貢献した。

在クリチバ日本国総領事館 推薦叙勲受章者

〈邦人叙勲〉

氏名	年齢	住所	勲等	国籍
尾中 弘孝	72歳	サンタカタリーナ州 フレイロジェリオ市	旭日単光章	ブラジル (帰化人)
<p>(主要経歴) 元 ラーモス日伯文化協会会長 (主な功績) 尾中氏は、平成3年以降、歴代最長となる計約11年(計12回)にわたりラーモス日伯文化協会会長を務め、ラーモス移住地が所在するサンタカタリーナ州フレイロジェリオ市周辺地域を中心に、日本文化、日本的価値の継承及び普及に貢献した。また、移住当初から、農業の成功には日本の心を理解することも必要との考えを持ち、高校在学時に学んだ剣道の指導を熱心に行い、現在も日系・非日系を問わずブラジル全国レベルでその普及に努めている。昭和61年には、同移住地内にブラジル唯一の本格的な剣道場「文武館」を竣工させ、日本式の礼儀、敬意等の発信の拠点となっている。</p> <p>尾中氏の出身地が「吉野の桜」で知られていたこともあり、約30年前から、ラーモス日伯文化協会会館が所在する土地を「桜公園」とするべく、自身で栽培した桜の苗を植えはじめ、日本的な美しい景観の整備、維持に努めている。さらに、フレイロジェリオ市内等の主要道路沿いに土地を持つ農家に桜の苗を寄贈し、ラーモス移住地へ続く道に桜を植えることを勧め、地域を日本的な景観をもって美しくする活動に従事してきた。パラナ州クリチバ市とパラナ日伯商工会議所が連携して進めている桜植樹事業に対し、数百本規模の桜の苗の寄贈も行っている。</p>				



氏名	年齢	住所	勲等	国籍
上口 寛	73歳	パラナ州 マウアダセーハ市	旭日双光章	ブラジル (帰化人)
<p>(主要経歴) 元 マウア文化体育協会会長 元 パラナ日伯文化連合会会長 (主な功績) 上口氏は、平成2年以降、パラナ州のマウア文化体育協会で複数の役員を歴任した後、平成10年から2年にわたり会長を務めた。同協会会長を退任した後も、協会活動の支援を続け、同市日系社会の厚い信頼を得ていたところ、パラナ州の日系団体を束ねるパラナ日伯文化連合会(アリアンサ)会長に推薦され、平成29年に就任した。その後、6年以上にわたり、アリアンサの会長及び評議会会長を歴任し、パラナ州における日系社会の地位向上、日本文化の伝承・普及等の促進に尽力した。</p> <p>また、上口氏は、アリアンサの会長に就任した際、平成30年の日本人のブラジル移住110周年を成功裡に祝賀することが自身の使命であると認識し、「日本人ブラジル移住110周年パラナ州祭典委員会」を発足させるとともに、自ら委員長に就任した。同氏は、アリアンサ会長兼パラナ州祭典委員長として、パラナ州政府、州内の各自治体、州内各地の日系社会、有識者、企業等に対して積極的に協力を呼びかけた。こうした上口氏の貢献により、パラナ州日系社会は一致団結して移住110周年式典等を無事に開催することができた。</p>				



〈外国人叙勲〉

氏名	年齢	住所	勲等	国籍
アントニオ・テルオ・カトウ	69歳	パラナ州 パラナヴァイ市	旭日双光章	ブラジル
<p>(主要経歴)</p> <p>元 パラナヴァイ市長 元 パラナ州議会議員 元 パラナヴァイ体育文化協会会長</p> <p>(主な功績)</p> <p>カトウ氏は、パラナ州パラナヴァイ市長として市内の学校で日本的価値の浸透等を通じて教育の質の向上に取り組むと、ブラジル全国の市長から5名のみが選出される「市長・児童賞」を2年連続で受賞し、パラナ州における日系社会の地位向上、親日感の醸成に貢献した。その後、カトウ氏の取り組みが基礎となり、パラナヴァイ市と愛知県豊橋市の間で教育交流が開始されると、同氏はパラナ州議会議員として二度豊橋市を訪問し、同交流の継続に勢いをつけた。</p> <p>さらに、カトウ氏はパラナ州議会議員として、平成19年に同州議会における「日本人のブラジル移住99年を記念する式典」の開催を他の日系議員と共に提案し、翌年、同100周年の機に皇太子殿下がパラナ州を御訪問された際、日系社会を代表して謁見したほか、平成25年には、同州議会における同105周年記念式典の開催を単独提案して実現を主導した。また、パラナ州議として3度にわたり訪日経済ミッションに参加し、両国経済関係の強化にも尽力した。</p> <p>令和5年末までの2年間は、パラナヴァイ体育文化協会会長として、コロナ禍後初となる「パラナヴァイ春祭り」を取り仕切り、同市日系社会の活性化、日本文化の継承及び発信に努めた。</p>				



在ポルトアレグレ領事事務所 推薦叙勲受章者

〈邦人叙勲〉

氏名	年齢	住所	勲等	国籍
麻生 陽	91歳	リオ・グランデ・ド・スール州 ポルトアレグレ市	旭日双光章	ブラジル (帰化人)
<p>(主要経歴)</p> <p>元 南日伯援護協会会長</p> <p>(主な功績)</p> <p>麻生氏は、昭和33年8月、26歳の時にブラジル国サンパウロ州サントス港に日本人移民として上陸後、リオ・グランデ・ド・スール州のカショエリーニャ市で借地農（花卉、野菜栽培）としてブラジルでの移住を開始した。その後、既に親族が移り住んでいた同州イタチ移住地に転住して花卉栽培に従事した。谷間の集落として開発から取り残されていたイタチ市では、自作農として日系移民を歓迎し、同氏は主に花卉栽培と花卉の委託販売等で成功を収めてイタチ市の発展に貢献した。また、イタチ市では相撲大会や盆踊りなどを地域住民と共に積極的に開催するなど、地域住民との相互理解、友好親善の促進に寄与した。</p> <p>また、南日伯援護協会の設立後、直ぐに同協会の会員となっていた同人は、イタチ市での花卉栽培、及び花卉の委託販売を始めた頃から、ポルトアレグレ市を訪れる際には同協会に立ち寄ると共に、時間の都合がつく限り、イベントや活動に積極的に参加してきた。昭和50年に販売業務拡大のため、単身州都ポルトアレグレにも居を構えたことも相まって、協会の活動に積極的に参加した。そのような同人のまじめで気さくな性格もあり、他の会員からの信頼を得て、平成11年から2年間、平成14年からは1年間、同協会の副会長として、ブラジル南部の2州（リオ・グランデ・ド・スール州及びサンタカタリーナ州）に散在する日系移住者の活動を支援すると共に、平成15年から3年間、ブラジル南部日系団体の要である同協会の会長として活発に活動を主導し、日系移民の社会福祉の向上と増進に大きく貢献した。</p>				



氏名	年齢	住所	勲等	国籍
高梨 輝久	82歳	リオ・グランデ・ド・スール州 カシアス・ド・スール市	旭日双光章	日本



(主要経歴)

元 カシアス・ド・スール日本語学校校長

現 カシアス・ド・スール日本人会会長

(主な功績)

高梨氏は、昭和36年10月、第一回公募移住者（技術移住：金型工）として渡伯（サンパウロ州サントス港に上陸）後、サンパウロ市所在の会社等で技術を活かして勤務した後、リオ・グランデ・ド・スール州カシアス・ド・スール市に所在の会社に移籍して金型課の課長を務めた。その後、同人の人柄の良さと高い技術力が目に留まり、同地の電機会社にて取締役兼工場長として迎えられた。同人は昭和44年11月、同地の伯人と結婚し、そこに根を下ろすことになった。

同人は、ごく自然に同地に溶け込んでいったが、同地のコミュニティを知るにつれて、同地に日本人や日系人コミュニティの拠り所となるものが無いことに気づき、日本人・日系人の親睦と福祉の向上、またその子弟が日本語を話し、読み書きが出来るようにするために意を決し、他の邦人仲間と「カシアス・ド・スール日本人会」を立ち上げ、自ら「カシアス・ド・スール日本語学校」を開校した。当初は自宅とガレージで始めたものであるが、現在まで途切れることなく、同地日本人・日系人をしっかり繋ぐ拠点として半世紀以上継続してきている。このことは、同人の温かい人柄と日本語普及にかけた熱意、そして日伯両国間の相互理解を一層深めたいと願う同人の大きな貢献の賜である。